

2024 夏季研究大会を振り返って

三大事業の中心となる夏季研究大会を、8月7日（水）8日（木）を中心に21の研究部が開催しました。今年度は、集合開催が5研究部、配信による開催が8研究部、集合と配信のハイブリッドによる開催が8研究部で、オンデマンド配信の期間を長期に設定するなど、より「選択」できるようにしました。その結果、全会員の43.1%にあたる5,302名の会員が参加しました。また、21の大会で合わせて88本の実践発表がされました。どの実践も組織的に取り組んだ優れた研究が報告されました。また、会員からの期待の声が高かった「協議の場」についても、13の研究部が位置づけ、熱心な協議が行われました。

開催にあたり、運営に携わった実行委員長を始めとする担当地区の皆様、研究に取り組んでくださった発表者・助言者の皆様、また猛暑の中、参加してくださった会員の皆様に、感謝いたします。

令和6年度の実施概要については以下の通りです。

令和6年度 夏季研究大会の実施概要

研究部	開催方法						参加人数		発表本数	協議の場	開催ブロック
	集合開催		リアルタイム配信		オンデマンド配信						
	令5	令6	令5	令6	令5	令6	令5	令6	令6	令6	令6
国語		○	●		●	○8/8~22	578	293	4	○	三島・田方
書写	●	○			●		90	139	2		磐周・湖西
社会			●	○			210	327	7	○	駿東・沼津
数学	●		●	○			347	411	14	○	駿東・沼津
理科	●	○	●			○8/10~23	317	269	6	○	富士
音楽	●	○					236	258	6	○	磐周・湖西
美術	●	○	●			○8/21~9/11	175	195	4	○	志太
保健体育	●	○					252	198	5	○	三島・田方
技術・家庭	●	○					725	181	9	○	静岡
英語		○	●	○	●	○8/9~29	318	435	3		志太
生活・総合			●	○	●	○7/22~8/13	225	214	3	○	静岡
道徳					●	○8/1~23	243	318	3		駿東・沼津
特別活動	●	○	●	○			167	160	4		小笠・榛原
学校保健	●	○	●	○		○8/9~23	458	459	1		静岡
学校図書館			●	○			101	128	1		富士
情報		○	●	○			256	142	3	○	静岡
特別支援	●	○			●		222	359	4	○	磐周・湖西
生徒指導	●	○			●	○8/12~31	193	216	4	○	富士
学校給食					●	○8/7~13	93	112	2		小笠・榛原
事務			●	○		○8/9~23	600	417	1	○	小笠・榛原
小規模校					●	○8/7~16	65	71	2		賀茂・東豆
合計	11	13	12	9	9	11	5,871	5,302	88	13	

※令和5年度は、技術・家庭科教育研究部は全国大会、事務研究部は東海大会を兼ねて開催した。

※配信によるものは、正確な人数把握ができないため、申込人数を参加人数としている。



(理科)



(学校図書館)



(技術・家庭)

各研究部に寄せられたアンケートを、以下の3つの視点でまとめました。

1 研究発表・分科会

- ・今、自分が抱えている課題やこれからの授業の方向性について、参加者の皆さんと意見交換しながら、考えを深めることができました。
- ・先生方の発表を聞いて、子どもたちがやってみたいと思うような言語活動の設定や評価規準の作成、小学校からの学びを活かした授業実践など、多くのことを学びました。
- ・授業の様子の動画があつてわかりやすかったです。日頃から疑問に思っていた「教材を切ること」や「価値導入」についての検証があり、疑問が解決できたような気がしました。
- ・分科会の発表では、地域教材をどのように活用していくか考える機会になりました。また、他地区にはどんな地域教材があるか知ることができ、自分が住む地域の教材を見つける視点に生かしたいと思いました。
- ・グループ協議の時間が有意義でした。他地域、他校種の先生方と交流をもてたことがとてもよかったです。
- ・それぞれの実践を、本校だったらどのように活用できるかという視点で聞くことができ、収穫がありました。また、グループ協議でも他校の様子や先生方の考えを知ることができ、勉強になりました。

実践発表は、発表者のみならず各地区で組織的に研究に取り組んだ素晴らしいものばかりでした。各地区の教育研究が、静教研の基盤となっていることを再認識しました。参加された方々も、日々の実践にどう生かそうかという前向きな姿勢で臨んでいる姿が多くみられました。また、運営側も、「他地区の会員との協議や情報交換の場」を有意義なものにするために、①協議の視点を明確にする ②グループ編成を工夫する ③ブレイクアウトの機能を活用する、などの工夫が効果的でした。



(国語)



(社会)



(学校保健)

2 講演会

- ・書写の原理原則や筆の動きによる字形の整え方、字形が手癖ではなく頭の中から現れるものであることを知ることができました。講師の実演があり、実際にプロの筆使いを見ることができよかったです。
- ・生徒指導提要のポイントをお示いただきながら、自分たち教員がどのように勸化、何をしなければならないかを学ぶことができました。魅力ある学校にするために、教師が変わらねばならないというメッセージが心に残りました。
- ・外国語における見方考え方とはどういうことかが、とてもクリアになりました。また、見方考え方を働かせるために、いかに魅力的な課題設定が重要になってくるかも理解できました。
- ・青島先生の講演が大変愉快で興味深く勉強になりました。青島先生のように、子供たちにも、音楽は楽しいことを伝えていきたいと思います。
- ・新しい教科書や学習指導要領と関連付けて、情報活用能力を高める活動が教科書に多く含まれていることや、インターネットと本を場面や用途に応じて使い分けることの重要性を改めて認識しました。
- ・特別活動の意義を感じる講話でした。特別活動の考え方を基盤にして今後も学級づくり・学校づくりを進めていきたいと思いました。

1

各研究部が実施した講演会には、大変勉強になったという声が多く寄せられました。学習指導要領や生徒指導提要などに示されている内容を、専門的にかつ具体的にお話いただいたことが好評でした。また、実践発表の内容に触れ、価値づけていただいた講話もあり、研究大会の一貫性をもたせるようにした大会もありました。今後も会員のニーズをとらえ満足度が高まる講演となることが望まれます。



(特別活動)



(書写)



(英語)

3 運営面

- ・リアルタイム配信だったが、ブレイクアウトの機能を効果的に活用していたので、続けてほしいです。
- ・主要教科や専門教科ばかりに参加しがちですが、オンデマンド配信でやっていただけると、複数の研究部に参加できるので、今後も積極的にお願いしたいと思いました。
- ・全体会を分科会会場で聞くことができたので、移動が少なく、時間を効果的に活用してよかったと思いました。
- ・事務職員だけでなく、校長先生や教頭先生のお話を伺えたことがとても勉強になりました。立場が異なると実践に対する視点も違うため、一方向だけでなく多方向から実践や業務について考えることができました。
- ・炎天下の中での駐車場係や道案内の係の先生の負担が大きいと感じました。
- ・実践発表は毎年必要か、発表の仕方を簡素化できないかなど、大会運営地区の負担とならないような持続可能な大会のあり方を考えたいと思いました。
- ・各学校で配信を視聴しましたが、近隣校や市、地区単位で集まって視聴し、協議することができれば、さらに自分の考えを深めることができたなと感じました。

各研究部で開催方法や運営を工夫したことで、参加者から、研究大会を評価する声を多くいただきました。多様な形式の大会があることが、夏季研究大会の「よさ」であると考えます。今後も大会を開催する地区が、規模や地理的な環境、研究部の特性を考えた方法を選び、運営を工夫することが求められています。さらに、今求められている研修観への転換を踏まえ、研修への期待感や満足度が高まるようにしたいと思います。

夏季研究大会への参加者もここ数年、毎年増加している傾向にあります。時間や旅費の負担を減らすために近隣の会場への参加やリアルタイムやオンデマンド配信の大会へ参加するといった会員も多くみられました。来年度も、さらに多くの会員の方に夏季研究大会へ参加していただくことを願っています。

《来年度に向けて会員の皆様へのお願い》

- 夏季研究大会は、会費を納めた会員の方のみが参加できる学びの場です。自身の専門性を高めたり、課題とされていることを解決したりするために活用してください。どの大会にも、いくつでも参加できます。
- 年度初めにホームページで会員登録する際には、夏季研究大会の日程やテーマ、講師一覧が掲載されています。早めに管理職の先生に参加希望を伝えるなど、計画を立てるといいと思います。
- 例年、申込〆切後の問い合わせが多く、大会運営や準備に支障が出ています。申込期限の厳守をお願いします。〆切は、例年、7月中旬としています。
- 研究会の発表原稿や講演会の資料は、静教研HPの「研究部」のページに掲載します。また、各研究部の成果刊行物もHPに掲載されることが増えてきました。折を見てチェックしていただければ幸いです。

②

議題2

今後の研究大会の計画について

1. 今年度の研究大会の特徴（傾向）

- ①開催方法が「多様化」されている。（集合開催・リアルタイム配信・オンデマンド配信）
- ②複数の参加方法を「選択」できるハイブリッド型の大会が増えている。
- ③会員からの期待の声が高い「協議の場」を設定する大会が増えている。
- ④運営しやすく、参加もしやすい「半日」開催が増えている。

2. 計画を作成する上で押さえておきたいこと

(1) 担当地区の状況を踏まえ、「主体的」に開催方法を設定することを大切にしたい。

- ・研究大会の担当地区は毎年変わる。地理的な環境、運営する地区の規模も違うため、前年と同じ方法で行うことを前提にするのではなく、担当地区が、どのような形で開催するのかを、「主体的」に考える。
- ・限られた条件（時間的、金銭的）の中で、すべての部員の要望をかなえることは難しいことである。研究部のねらいや課題、参加者の満足度の高まりに迫る上で、より効果的で最適の手立てとなる開催方法を選ぶ。
- ・運営方法を参考にする場合、同じ研究部で他地区が開催する大会より、他の研究部で同じ地区が開催する大会を視察することがいい場合もある。

(2) 研修への参加に「選択」できることを大事にしたい。

- ・静教研は、自身の教職員としての力量を高めるために自主的に研修へ参加できる組織であるため、参加方法を「選択」できることは大切にしたいことである。
- ・集合開催、リアルタイム配信、オンデマンド配信を複数組み合わせるハイブリッドの開催は、会員から大変好評であり、来年度も希望する声が多い。
- ・登録した所属の研究部以外のどの大会にも参加の「選択」ができること周知したい。裏返せば、運営する側もすべての会員を視野に考えてほしい。
- ・「国語」と「書写」と「学校図書館」や「技術・家庭科」と「情報」など、複数の研究部に参加しなかったという声もあがっている。すべて調整できることはないと思うが、研究部間の連携も必要になる。

(3) 会員の期待の高い「参加型」の大会になるように工夫したい。

- ・研究大会に期待や関心の高い会員は、「参加型」の大会を希望している。
- ・集合開催でもリアルタイム配信でも、参加者の双方向による協議や情報交換の有無によって、満足度が変わる。
- ・オンデマンド配信で行う場合も、例えば中学校単位や市町、地域単位で集まって視聴するなど、どのようにしたら「参加型」にすることができるか、研究部内で検討したい。

(4) 「半日」開催を目的にしない。

- ・ここ数年「半日」開催が増えてきてはいるが、夏季休業中に開催していること、各教育委員会教育長及び各学校長宛てに、夏季研究大会の基準日に行事を入れないことを依頼していることから、静教研として「半日」開催を推奨することはない。
- ・「一日」で開催していた内容を、「半日」で行うには、何かを切らなければならない。何を切るのか、何を大切にするのか、明確にする必要がある。

(5) 予算の裏付けをとってから、会場や講師を押さえる。

例年、準備を始めてから、予算が足りなくて困るといった声が聞かれる。会場及び講師選定、配信業者の選定など、まず予算化し、裏付けをとってから始めたい。

①会場

- ・ 集合開催の場合、当日の参加予定数や分科会数を把握し、見合った会場を選定する。
- ・ ここ数年空調設備や配信設備が整ってきたため、学校を会場に設定することも増えてきたが、任意団体である静教研の研究大会が、目的外使用にあたらないかを確認し、もしその場合は、各市町のルールに沿った事務手続きをする。
- ・ 従来行っていた会場借料の補助は、令和7年度から実施しない。但し、上位団体を兼ねる大会への補助を10万円増額する。

②配信

- ・ 配信を行う際は、自前で行おうとしないで、早めに業者を選定し、準備を進める。
- ・ 大型会場を使用しなければ、業者に支払う分の予算は充分ある。
- ・ 学校や市の施設の配信設備も、目的外使用にあたらないか確認する。

③講師

- ・ 講師の謝金については、規定を参照し、依頼するときに伝えておく。
(講師謝金：県外講師は8万円以内、県内講師は5万円以内)
- ・ 交通費については、実費を支払うことになっている
- ・ 宿泊については、原則としては想定していない。

④運営役員の旅費

- ・ 学校配当旅費の削減の状況は、今後も継続すると思われる。同じように、静教研の予算も学校数や教職員数の減少に伴う収入減や物価高に伴う支出増の傾向にある。
- ・ そうした状況から、令和7年度の研究大会の主要役員の旅費は、以下のよう考える。

- ①会員が夏季研究大会へ参加するための旅費については、従来どおり学校負担を原則とする。
- ②その上で、研究大会を開催するに当たって必要となる運営役員の旅費については、所属する学校長の希望に応じて、部費から負担してもよいこととする。

③②に示した運営役員は次の役員とする。

- | | | | | |
|-------------------|------------------------|--------|-----------|---------|
| 1. 研究部長 | 2. 大会実行委員長 | 3. 事務長 | 4. 大会事務局長 | 5. 会計担当 |
| 6. 実践発表者 | 7. 分科会司会者 | 8. 助言者 | | |
| 9. その他部長が必要と認める役員 | (全体会の登壇者や分科会でのICT担当者等) | | | |

②

令和9年度 夏季研究大会の開催基準日について

- 1 例年、3年先の夏季研究大会開催基準日を、第2回理事教育研修会で決定し、第2回研究部代表者研修会で、各部の部長に伝達している。
- 2 決定にあたって、月曜日は休館日になる施設が多く、前日リハーサルする研究部もあるため、月・火曜日の開催は避ける。また、学校閉庁日や会員の夏季休暇に配慮し、山の日（8月11日）以降の開催は避ける。
- 3 3年先のことであるが、各研究部で大会の方向性を確認した後に、集合開催・リアルタイム配信による開催の場合は、この基準日に実施するよう会場予約等の準備を進める。オンデマンド配信は、この基準日を録画収録日に充ててもよい。全国大会や東海北陸大会を兼ねる開催の場合はこの限りではない。
- 4 この開催基準日は、例年11月下旬～12月上旬に、県教育委員会や各市町教育委員会、各教育機関等に文書で通知し、会議や研修会等をもたないように依頼している。
- 5 県教委、市町教委等も夏季研究大会を考慮して研修会・会合等の日程調整をしてくれている。研究部で基準日以外の日に開催日を勝手に変更することのないよう注意する。

【過去の夏季研究大会開催日・開催予定日】

平成27年度 8月6日(木)、7日(金)
 平成28年度 8月4日(木)、5日(金)
 平成29年度 8月9日(水)、10日(木)
 平成30年度 8月8日(水)、9日(木)
 令和元年度 8月7日(水)、8日(木)
 令和2年度 8月5日(水)、6日(木)
 令和3年度 8月4日(水)、5日(木)
 令和4年度 8月3日(水)、4日(木)
 令和5年度 8月2日(水)、3日(木)
 令和6年度 8月7日(水)、8日(木)
 令和7年度 8月6日(水)、7日(木)
 令和8年度 8月5日(水)、6日(木)

令和9年 8月

日	月	火	水	木	金	土
1 仏滅	2 先勝	3 友引	4 先負	5 仏滅	6 大安	7 赤口
8 先勝 立秋	9 友引	10 先負	11 仏滅 山の日	12 大安	13 赤口	14 先勝
15 友引	16 先負	17 仏滅	18 大安	19 赤口	20 先勝	21 友引
22 先負	23 仏滅 処暑	24 大安	25 赤口	26 先勝	27 友引	28 先負
29 仏滅	30 大安	31 赤口	1 友引 三十日	2 先負	3 仏滅	4 大安

開催基準日（案）：令和9年 8月4日（水）、5日（木）

この2日間での開催の可否を研究部で協議し、変更を希望する場合は、静教研事務局に連絡し、今後の対応について指示を受ける。

2

令和6～10年度 夏季研究大会の開催担当地域

令和6年9月17日(火)現在

◎全国大会 ○東海・北陸大会、関東ブロック大会等 ※地域名の右の数字は前回開催からの年数

研究部	令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			
	8/7(水)・8(木)			8/6(水)・7(木)			8/5(水)・6(木)			8/4(水)・5(木)			8/ ()・ ()			
1	国語	東	三・田	10	静	静岡	4	東	賀・東	15	西	小・榛	9	西	志太	6
2	書写	西	磐・湖	6	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	富士	7
3	社会	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	磐・湖	9	東	三・田	14	西	志太	8
4	数学	東	駿・沼	6	東	○富士	10	西	小・榛	7	西	磐・湖	6	静	静岡	4
5	理科	東	富士	14	静	静岡	4	東	賀・東	10	東	駿・沼	5	西	小・榛	8
6	音楽	西	磐・湖	10	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	小・榛	6	東	三・田	10
7	美術	西	志太	5	東	富士	9	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	磐・湖	6
8	保体	東	三・田	15	東	富士	8	静	静岡	4	西	志太	7	東	駿・沼	5
9	技・家	静	静岡	4	西	磐・湖	12	西	志太	8	東	賀・東	18	東	富士	7
														西	○小・榛	6
10	英語	西	志太	7	東	三・田	9	静	◎静岡	5	西	磐・湖	7	東	駿・沼	5
11	生活総合	静	静岡	4	東	賀・東	14	西	志太	8	西	磐・湖	10	東	駿・沼	6
12	道徳	東	駿・沼	6	静	静岡	4	西	小・榛	7	東	○富士	7	西	志太	6
13	特活	西	小・榛	15	東	駿・沼	5	西	磐・湖	7	静	静岡	4	東	富士	6
14	学校保健	静	静岡	4	西	磐・湖	16	東	富士	7	西	志太	5	東	賀・東	20
15	図書館	東	富士	6	西	○小・榛	8	東	駿・沼	6	西	志太	5	静	静岡	4
16	情報	静	静岡	4	東	富士	6	西	磐・湖	5	東	駿・沼	5	西	小・榛	5
17	特別支援	西	磐・湖	5	東	三・田	8	西	○小・榛	6	東	賀・東	14	静	静岡	5
18	生徒指導	東	富士	7	西	志太	10	東	駿・沼	5	静	静岡	4	西	磐・湖	6
19	学校給食	西	小・榛	14	西	志太	9	東	三・田	8	東	富士	7	静	静岡	4
20	事務	西	小・榛	12	西	志太	6	静	静岡	4	東	駿・沼	6	西	磐・湖	8
21	小規模	東	賀・東	15	西	小・榛	16	西	志太	6	東	駿・沼	5	静	静岡	5

東① 1～2	賀茂・東豆	9	東	賀・東	10	東	賀・東	7	東	賀・東	9	東	賀・東	8 ↓ 7
東② 1～2	三島・田方			三・田			三・田			三・田				
東③ 3～4	駿東・沼津			駿・沼			駿・沼			駿・沼				
東④ 2～3	富士			富士			富士			富士				
静 4～5	静岡	4	静	静岡	4	静	静岡	5	静	静岡	3	静	静岡	5
西① 2～3	志太	8	西	志太	7	西	志太	9	西	志太	9	西	志太	8 ↓ 9
西② 2～3	小笠・榛原			小・榛			小・榛			小・榛				
西③ 2～3	磐周・湖西			磐・湖			磐・湖			磐・湖				

<p>地域ローテーションの基本</p> <p>◆静岡は、4年の間を空けて、5年に1回開催。間が3年(5年間に2回開催)は作らない。</p> <p>◆静岡・静西は、6～8年の間を空けることが基本。やむを得ず間が5年となる場合もある。</p>	<p>数学教育研究部 兼: 関東甲信越静岡大会 8月20日(水)に開催</p> <p>学校図書館研究部 兼: 東海地区大会 8月基準日に開催</p>	<p>英語教育研究部 兼: 全国大会 11月20(金)21(土)に グランシップで開催を予定</p> <p>特別支援教育研究部 兼: 東海・北陸地区大会 8月6日(木)7日(金)に グランシップで開催する。静岡 地区の負担を考慮し、R9と R10の担当地域を入れ替 えた。</p>	<p>道徳教育研究部 兼: 中部地区大会 ※道徳部の中部地区大会 ローテでは静岡市が開催 担当になるが、令和12年度 に本県で開催する全国大 会を静岡市が担当するの が適切と考え、ローテを 変更して、富士地区の担 当とした。</p>	<p>技術・家庭科教育研究 部 兼: 東海大会 R5全国大会を静岡(駿 東・沼津)で開催した。 R10東海大会は静岡西で 開催するため、富士地 区の予定を、小笠・榛原 地区に変更したい。</p>
--	--	--	--	---

令和7年度 各研究部の研究部費

研究部費算出法

研究部費配分類

部員数	配分類
0~	50万円
100~	
200~	
300~	
400~	520,000
500~	540,000
600~	560,000
700~	580,000
800~	600,000
900~	620,000
1000~	640,000
1100~	660,000
1200~	680,000
1300~	700,000
1400~	720,000
1500~	740,000
1600~	760,000
1700~	780,000
1800~	800,000
1900~	820,000
2000~	840,000

No.	研究部	令和5年度		令和6年度		令和7年度	
		部員数 R4	配分類	部員数 R5	配分類	部員数 R6	配分類
1	国語	1,675	760,000	1,632	760,000	1,664	760,000
2	書写	252	500,000	240	500,000	267	500,000
3	社会	1,256	680,000	1,242	680,000	1,279	680,000
4	数学	1,350	700,000	1,362	700,000	1,432	720,000
5	理科	1,100	660,000	1,077	640,000	1,045	640,000
6	音楽	757	580,000	747	580,000	740	580,000
7	美術	451	520,000	478	520,000	458	520,000
8	保健体育	1,272	680,000	1,248	680,000	1,235	680,000
9	技術・家庭	496	520,000	471	520,000	450	520,000
10	英語	1,050	640,000	991	620,000	1,005	640,000
11	生活・総合	609	560,000	591	540,000	640	560,000
12	道徳	736	580,000	676	560,000	803	600,000
13	特別活動	570	540,000	531	540,000	603	560,000
14	学校保健	613	560,000	601	560,000	587	540,000
15	学校図書館	315	500,000	331	500,000	341	500,000
16	情報	574	540,000	543	540,000	548	540,000
17	特別支援	1,362	700,000	1,414	720,000	1,469	720,000
18	生徒指導	442	520,000	439	520,000	514	540,000
19	学校給食	267	500,000	265	500,000	259	500,000
20	事務	597	540,000	576	540,000	575	540,000
21	小規模校	439	520,000	349	500,000	448	520,000
合計		16,183	12,300,000	15,804	12,220,000	16,362	12,360,000

上記の研究部費とは別に、次の経費は、本部会計から支出する。

- ①上位大会を兼ねた研究大会に「全国大会等補助金」として40万円
(前年度20万、開催年度20万)※10万円の増額
- ②児童生徒が参加する調査研究活動(書写・技術家庭・英語・学校図書館)への活動費として当該研究部からの申請額分
- ③上位団体、関係団体等への負担金として、当該研究部からの申請額分

令和6年度研究部員数一覧

	国語	書写	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	生活	道徳	特活	学保	図書	情報	特支	生指	給食	事務	小規模	部員数	会員数	
1	賀茂	31	5	26	32	23	19	9	31	10	20	3	11	4	24	7	8	22	4	7	21	72	389	302
2	田方	63	13	54	60	46	30	18	63	17	52	28	41	34	26	17	25	56	19	10	29	13	714	523
3	伊東	29	5	15	25	16	10	8	26	7	19	7	14	10	12	3	4	29	4	4	10	4	261	219
4	熱海	13	2	14	14	11	11	3	12	7	12	5	8	9	10	6	6	12	8	2	10	40	215	128
5	三島	58	12	53	56	39	33	18	53	13	42	19	35	32	22	14	30	74	19	10	22	9	663	449
6	駿東	166	30	129	128	109	72	55	117	55	105	67	75	61	51	38	45	136	52	34	55	10	1,590	1,201
7	沼津	95	22	85	89	73	48	27	70	31	67	40	56	42	45	17	26	81	32	21	41	2	1,010	779
8	富士	189	14	128	174	114	70	41	138	36	111	89	104	83	64	35	71	125	52	26	71	20	1,755	1,284
9	静岡	432	37	332	333	240	158	75	291	89	202	133	187	94	117	53	121	344	75	25	101	228	3,667	2,488
10	志太	253	42	175	203	154	108	75	151	61	146	91	137	127	68	58	102	197	108	45	64	7	2,372	1,712
11	榛原	48	14	43	47	31	23	20	40	23	28	29	20	15	18	10	18	61	22	13	23	3	549	402
12	小笠	148	14	93	105	78	52	32	77	35	76	41	37	25	53	39	27	135	42	18	53	23	1,203	1,077
13	磐岡	91	42	85	110	72	80	53	120	43	86	56	56	53	57	34	45	153	62	27	48	16	1,389	1,327
14	湖西	35	14	34	39	26	19	17	33	17	30	26	15	11	15	8	16	41	10	14	27	1	448	302
15	その他	13	1	13	17	13	7	7	13	6	9	6	7	3	5	2	4	3	5	3	0	0	137	102
	計	1,664	267	1,279	1,432	1,045	740	458	1,235	450	1,005	640	803	603	587	341	548	1,469	514	259	575	448	16,362	12,295

議題5

令和6年度 研究助成について(理事会での審査結果)

9月17日(火)の第2回理事会での審査の結果、応募のあった次の5名に対する研究助成を決定しました。

No.	応募者 氏名・職名・学校名	研究部	研究テーマ (サブテーマ)
1	齋藤 太嗣 教諭 富士市立岳陽中学校	理科	理科における自己選択の場を多く取り入れた理科授業の実践
2	宇宿 達矢 教諭 三島市立山田小学校	社会科	社会的事象の見方・考え方を働かせ、深い学びを実現する授業のあり方を考える
3	伊保内 幸子 教諭 静岡市立東豊田小学校	道徳	誰もが自分の思いを表現できる道徳科の授業
4	小澤 葵 教諭 伊豆の国市立大仁小学校	美術	「想像が広がるおもしろさ」を感じる授業づくり
5	岩谷 佑紀 教諭 三島市立南小学校	理科	理科の見方・考え方はたらかせ、自ら課題を解決できる児童生徒の育成について

※受付順

過去の研究助成受賞研究部一覧

年度 (平成)	国語	書写	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	生総	道徳	特活	学保	図書	情報	特支	生指	給食	事務	小規模	その他	計
20	3																1						4
21			1						1				1										3
22	3		1																			2	6
23			1								1											3	5
24	1		1						1	3						1	1						8
25			1	4		1					1						1						8
26			1			1						1				1	2				1		7
27			1	2					1				1		1			1				1	8
28			2		1			1		2							1					1	8
29					3				1			2					2						8
30	1	1					1		1			1				1							6
令1				1			1										1						3
令2					1							1					1						3
令3																	1						1
令4			1		1																		2
令5				1						1		1					1						4
令6			1		2		1					1											5
計	8	1	11	8	8	2	3	1	5	6	2	7	2	0	1	3	12	1	0	0	1	7	89

令和6年度は応募者数

* 研究助成事業における募集要項の変更

	年度	助成金額	件数
平成	8年度	3万円	3件
平成	14年度	5万円	3件
平成	15年度	5万円	3件
平成	20年度	5万円	静教研会員
平成	22年度	5万円	6件程度
平成	25年度	5万円	8件程度
令和	元年度	3万円	6件程度
令和	4年度	5万円	6件程度

部長の推薦書は不要に

近年、研究助成の応募者が減っている。その要因は浜松の退会による事業見直しで、助成件数を8本から6本に、助成額も5万円から3万円に減らしたことによると思われる。会員の自主的な研究活動の支援として大事な事業であり、応募者数を増やす必要があるという観点から、令和3年度の第2回理事会で、
 ①助成額を5万円に戻す
 ②これまで行っていた研究部長の推薦書(上申書)を求めない
 の2点が決まり、令和4年度から実施することになった。

在り方検討委員会からの報告

1. 静教研と浜松市教研との合同会議について

「浜松市教研との協定（第Ⅱ期）」が本年度末で終了することを踏まえ、昨年度末に、①浜松市教研から要望のあった「県ものづくり教育フェア」「県中学生英語弁論大会」「県読書感想文コンクール」の3つの調査研究活動の参加を認めること②調査研究活動費は、現状どおりとすること、を決定した。

11月に開催している合同会議を以下のとおり開催し、「覚書」及び「申し合わせ書」を双方で確認し合い、調印する予定である。なお、取り交わした書面については、第3回研究部代表者研修会で報告するとともに、「静教研だより1月号」にて、全会員に公開することとする。

- (1)実施日 令和6年11月12日(火) 14:00～16:00 県教育会館 特別会議室(進行:浜松市)
- (2)参加者 ①静岡県教育研究会(会長・副会長・常任理事・当該研究部長・事務局)
②浜松市教育研究会(会長・副会長・当該研究部代表顧問校長・事務局)
- (3)内 容 ①「浜松市の児童生徒の学びを保障するための覚書」について
②「申し合わせ書」について
③今後の調査研究活動の進め方について
・英語教育研究部 ・技術・家庭科教育研究部 ・学校図書館研究部

2. 「次代につなぐ持続可能な静教研の在り方」について

平成24年度に現在のテーマである「ときめき かかわり 未来へつなぐ」や研究大会の地区・地域の割り振りを一新した「静教研教育研究検討委員会(現 在り方検討委員会)」で協議した項目に沿って、以下のように協議を行った。(浜松市関係を除く)

- 第1回 在り方検討委員会 6月17日(月) 14:00
○次代へつなぐ持続可能な静教研の在り方について、検討が必要だと思われる項目についてのディスカッション
- 第2回 在り方検討委員会 9月4日(水) 14:00
○基本テーマについて
○研究大会について
○予算・組織・諸活動(調査研究活動・研究成果刊行)について

今後、第3回在り方検討委員会を、12月10日(火)に開催。大まかな方針を提言書としてまとめる。第3回理事会を経て、第3回研究部代表者研修会にて協議する。令和7年度在り方検討委員会に引き継いでいく。

なお、第3回在り方検討委員会の資料としたいので、一部の研究部にアンケートをお願いしたい。